

福島県の漁業と漁業関係者の生活を守るために東京電力福島第一原発敷地内に保管されているトリチウムを含む処理水の海洋放出に反対する意見書

東京電力福島第一原発で増え続けるトリチウムを含む処理水の処分方法などを議論する政府の「多核種除去設備等処理水の取り扱いに関する小委員会」は、現実的な選択肢として「海洋放出の方が確実に実施できる」と海洋放出の優位性を強調した報告書をまとめた。トリチウムを含む処理水の海洋放出は、前例もあり、現実的、監視体制の容易さを評価する一方で、風評被害は避けられず、風評被害対策の徹底も必要だとしています。

しかし、公聴会では漁業従事者から「試験操業を繰返し、やっと本操業が見えてきたのにトリチウムを含む処理水が放出されたら、今までの苦労が水の泡になってしまう。後継者を育てないと技術の継承もできず、福島県の漁業は崩壊してしまいます」と切実に訴えられました。

処理水の海洋放出は海洋環境を汚染し、漁業従事者にも大きな打撃を与えます。これまで福島県産の農水畜産物などの、安全性の確保や風評被害の克服に取り組んできた生産者の努力と将来への展望を根底から覆すこととなります。

福島県民は原発事故以来、今日までの長期の避難生活や放射線による健康不安、農水畜産物の風評被害など、多大の苦しみを余儀なくされてきました。

これ以上、原発事故の犠牲を押し付けてはなりません。県民の安全と健康と生活を守るため、トリチウムを含む処理水の海洋放出には反対です。

よって、下記の事項の実現について、強く要望します。

記

1. トリチウムを含む処理水は、海洋放出ではなく、地上タンクでの長期保存とし、トリチウムの分離、回収技術を研究開発し実用化すること。
2. タンク内には、トリチウム以外の基準値を上回る放射性物質が含まれており、徹底した除去を行うこと。
3. 福島県産の農水畜産物に対する風評被害の解消に全力を挙げること。
4. 何よりも優先して被災県民の意見を聞く公聴会を開催し政策に反映させること。

以上、地方自治法第99条にもとづき、意見書を提出します。

令和2年7月3日

衆議院議長 大島 理森 様

福島県南会津郡只見町議会
議長 大塚 純一郎

福島県の漁業と漁業関係者の生活を守るために東京電力福島第一原発敷地内に保管されているトリチウムを含む処理水の海洋放出に反対する意見書

東京電力福島第一原発で増え続けるトリチウムを含む処理水の処分方法などを議論する政府の「多核種除去設備等処理水の取り扱いに関する小委員会」は、現実的な選択肢として「海洋放出の方が確実に実施できる」と海洋放出の優位性を強調した報告書をまとめた。トリチウムを含む処理水の海洋放出は、前例もあり、現実的、監視体制の容易さを評価する一方で、風評被害は避けられず、風評被害対策の徹底も必要だとしています。

しかし、公聴会では漁業従事者から「試験操業を繰返し、やっと本操業が見えてきたのにトリチウムを含む処理水が放出されたら、今までの苦労が水の泡になってしまう。後継者を育てないと技術の継承もできず、福島県の漁業は崩壊してしまいます」と切実に訴えられました。

処理水の海洋放出は海洋環境を汚染し、漁業従事者にも大きな打撃を与えます。これまで福島県産の農水畜産物などの、安全性の確保や風評被害の克服に取り組んできた生産者の努力と将来への展望を根底から覆すこととなります。

福島県民は原発事故以来、今日までの長期の避難生活や放射線による健康不安、農水畜産物の風評被害など、多大の苦しみを余儀なくされてきました。

これ以上、原発事故の犠牲を押し付けてはなりません。県民の安全と健康と生活を守るため、トリチウムを含む処理水の海洋放出には反対です。

よって、下記の事項の実現について、強く要望します。

記

1. トリチウムを含む処理水は、海洋放出ではなく、地上タンクでの長期保存とし、トリチウムの分離、回収技術を研究開発し実用化すること。
2. タンク内には、トリチウム以外の基準値を上回る放射性物質が含まれており、徹底した除去を行うこと。
3. 福島県産の農水畜産物に対する風評被害の解消に全力を挙げること。
4. 何よりも優先して被災県民の意見を聞く公聴会を開催し政策に反映させること。

以上、地方自治法第99条にもとづき、意見書を提出します。

令和2年7月3日

参議院議長 山東 昭子 様

福島県南会津郡只見町議会
議長 大塚 純一郎

福島県の漁業と漁業関係者の生活を守るために東京電力福島第一原発敷地内に保管されているトリチウムを含む処理水の海洋放出に反対する意見書

東京電力福島第一原発で増え続けるトリチウムを含む処理水の処分方法などを議論する政府の「多核種除去設備等処理水の取り扱いに関する小委員会」は、現実的な選択肢として「海洋放出の方が確実に実施できる」と海洋放出の優位性を強調した報告書をまとめた。トリチウムを含む処理水の海洋放出は、前例もあり、現実的、監視体制の容易さを評価する一方で、風評被害は避けられず、風評被害対策の徹底も必要だとしています。

しかし、公聴会では漁業従事者から「試験操業を繰返し、やっと本操業が見えてきたのにトリチウムを含む処理水が放出されたら、今までの苦労が水の泡になってしまう。後継者を育てないと技術の継承もできず、福島県の漁業は崩壊してしまいます」と切実に訴えられました。

処理水の海洋放出は海洋環境を汚染し、漁業従事者にも大きな打撃を与えます。これまで福島県産の農水畜産物などの、安全性の確保や風評被害の克服に取り組んできた生産者の努力と将来への展望を根底から覆すこととなります。

福島県民は原発事故以来、今日までの長期の避難生活や放射線による健康不安、農水畜産物の風評被害など、多大の苦しみを余儀なくされてきました。

これ以上、原発事故の犠牲を押し付けてはなりません。県民の安全と健康と生活を守るため、トリチウムを含む処理水の海洋放出には反対です。

よって、下記の事項の実現について、強く要望します。

記

1. トリチウムを含む処理水は、海洋放出ではなく、地上タンクでの長期保存とし、トリチウムの分離、回収技術を研究開発し実用化すること。
2. タンク内には、トリチウム以外の基準値を上回る放射性物質が含まれており、徹底した除去を行うこと。
3. 福島県産の農水畜産物に対する風評被害の解消に全力を挙げること。
4. 何よりも優先して被災県民の意見を聞く公聴会を開催し政策に反映させること。

以上、地方自治法第99条にもとづき、意見書を提出します。

令和2年7月3日

内閣総理大臣 安倍 晋三 様

福島県南会津郡只見町議会
議長 大塚 純一郎

福島県の漁業と漁業関係者の生活を守るために東京電力福島第一原発敷地内に保管されているトリチウムを含む処理水の海洋放出に反対する意見書

東京電力福島第一原発で増え続けるトリチウムを含む処理水の処分方法などを議論する政府の「多核種除去設備等処理水の取り扱いに関する小委員会」は、現実的な選択肢として「海洋放出の方が確実に実施できる」と海洋放出の優位性を強調した報告書をまとめた。トリチウムを含む処理水の海洋放出は、前例もあり、現実的、監視体制の容易さを評価する一方で、風評被害は避けられず、風評被害対策の徹底も必要だとしています。

しかし、公聴会では漁業従事者から「試験操業を繰返し、やっと本操業が見えてきたのにトリチウムを含む処理水が放出されたら、今までの苦労が水の泡になってしまう。後継者を育てないと技術の継承もできず、福島県の漁業は崩壊してしまいます」と切実に訴えられました。

処理水の海洋放出は海洋環境を汚染し、漁業従事者にも大きな打撃を与えます。これまで福島県産の農水畜産物などの、安全性の確保や風評被害の克服に取り組んできた生産者の努力と将来への展望を根底から覆すこととなります。

福島県民は原発事故以来、今日までの長期の避難生活や放射線による健康不安、農水畜産物の風評被害など、多大の苦しみを余儀なくされてきました。

これ以上、原発事故の犠牲を押し付けてはなりません。県民の安全と健康と生活を守るため、トリチウムを含む処理水の海洋放出には反対です。

よって、下記の事項の実現について、強く要望します。

記

1. トリチウムを含む処理水は、海洋放出ではなく、地上タンクでの長期保存とし、トリチウムの分離、回収技術を研究開発し実用化すること。
2. タンク内には、トリチウム以外の基準値を上回る放射性物質が含まれており、徹底した除去を行うこと。
3. 福島県産の農水畜産物に対する風評被害の解消に全力を挙げること。
4. 何よりも優先して被災県民の意見を聞く公聴会を開催し政策に反映させること。

以上、地方自治法第99条にもとづき、意見書を提出します。

令和2年7月3日

経済産業大臣 梶山 弘志 様

福島県南会津郡只見町議会
議長 大塚 純一郎

福島県の漁業と漁業関係者の生活を守るために東京電力福島第一原発敷地内に保管されているトリチウムを含む処理水の海洋放出に反対する意見書

東京電力福島第一原発で増え続けるトリチウムを含む処理水の処分方法などを議論する政府の「多核種除去設備等処理水の取り扱いに関する小委員会」は、現実的な選択肢として「海洋放出の方が確実に実施できる」と海洋放出の優位性を強調した報告書をまとめた。トリチウムを含む処理水の海洋放出は、前例もあり、現実的、監視体制の容易さを評価する一方で、風評被害は避けられず、風評被害対策の徹底も必要だとしています。

しかし、公聴会では漁業従事者から「試験操業を繰返し、やっと本操業が見えてきたのにトリチウムを含む処理水が放出されたら、今までの苦労が水の泡になってしまう。後継者を育てないと技術の継承もできず、福島県の漁業は崩壊してしまいます」と切実に訴えられました。

処理水の海洋放出は海洋環境を汚染し、漁業従事者にも大きな打撃を与えます。これまで福島県産の農水畜産物などの、安全性の確保や風評被害の克服に取り組んできた生産者の努力と将来への展望を根底から覆すこととなります。

福島県民は原発事故以来、今日までの長期の避難生活や放射線による健康不安、農水畜産物の風評被害など、多大の苦しみを余儀なくされてきました。

これ以上、原発事故の犠牲を押し付けてはなりません。県民の安全と健康と生活を守るため、トリチウムを含む処理水の海洋放出には反対です。

よって、下記の事項の実現について、強く要望します。

記

1. トリチウムを含む処理水は、海洋放出ではなく、地上タンクでの長期保存とし、トリチウムの分離、回収技術を研究開発し実用化すること。
2. タンク内には、トリチウム以外の基準値を上回る放射性物質が含まれており、徹底した除去を行うこと。
3. 福島県産の農水畜産物に対する風評被害の解消に全力を挙げること。
4. 何よりも優先して被災県民の意見を聞く公聴会を開催し政策に反映させること。

以上、地方自治法第99条にもとづき、意見書を提出します。

令和2年7月3日

復興大臣 田中 和徳 様

福島県南会津郡只見町議会
議長 大塚 純一郎

福島県の漁業と漁業関係者の生活を守るために東京電力福島第一原発敷地内に保管されているトリチウムを含む処理水の海洋放出に反対する意見書

東京電力福島第一原発で増え続けるトリチウムを含む処理水の処分方法などを議論する政府の「多核種除去設備等処理水の取り扱いに関する小委員会」は、現実的な選択肢として「海洋放出の方が確実に実施できる」と海洋放出の優位性を強調した報告書をまとめた。トリチウムを含む処理水の海洋放出は、前例もあり、現実的、監視体制の容易さを評価する一方で、風評被害は避けられず、風評被害対策の徹底も必要だとしています。

しかし、公聴会では漁業従事者から「試験操業を繰返し、やっと本操業が見えてきたのにトリチウムを含む処理水が放出されたら、今までの苦労が水の泡になってしまう。後継者を育てないと技術の継承もできず、福島県の漁業は崩壊してしまいます」と切実に訴えられました。

処理水の海洋放出は海洋環境を汚染し、漁業従事者にも大きな打撃を与えます。これまで福島県産の農水畜産物などの、安全性の確保や風評被害の克服に取り組んできた生産者の努力と将来への展望を根底から覆すこととなります。

福島県民は原発事故以来、今日までの長期の避難生活や放射線による健康不安、農水畜産物の風評被害など、多大の苦しみを余儀なくされてきました。

これ以上、原発事故の犠牲を押し付けてはなりません。県民の安全と健康と生活を守るため、トリチウムを含む処理水の海洋放出には反対です。

よって、下記の事項の実現について、強く要望します。

記

1. トリチウムを含む処理水は、海洋放出ではなく、地上タンクでの長期保存とし、トリチウムの分離、回収技術を研究開発し実用化すること。
2. タンク内には、トリチウム以外の基準値を上回る放射性物質が含まれており、徹底した除去を行うこと。
3. 福島県産の農水畜産物に対する風評被害の解消に全力を挙げること。
4. 何よりも優先して被災県民の意見を聞く公聴会を開催し政策に反映させること。

以上、地方自治法第99条にもとづき、意見書を提出します。

令和2年7月3日

環境大臣 小泉 進次郎 様

福島県南会津郡只見町議会
議長 大塚 純一郎